

# 加計問題は日本のフェイクニュース

シリーズ

日本が危ない!

## 「歪められた行政が正された」加戸発言、朝毎は「完全無視」

トランプ米大統領の発言をめぐるフェイクニュース(偽ニュース)に世界的な注目が集まるなかで、日本でも同様のことが起こっている。その象徴が学校法人・加計学園(岡山市)の獣医学部新設問題だ。首相、安倍晋三の「お友達」である加計学園理事長の加計孝太郎のために新設を認めるよう政府側の「忖度」が働いたと、朝日新聞などのメディアが追及し、内閣支持率急落の大きな要因ともなっている。

だが、その報道ぶりは自分に都合のいい情報を流し、印象操作を繰り返しているとの批判が出ている。中でも特徴的だったのが国家戦略特区として、愛媛県今治市での獣医学部設置が認められたことは「歪められた行政が正された」と国会で証言した同

年間加計ありきだった。1、2年の加計ありきじゃない」

「10年間我慢させられてきた岩盤規制にドリルで穴を開けていただいた。『歪められた行政が正された』というのが正しい発言ではないか」

「手続き論だけが先行している。愛媛県や今治市の思い、日本の未来、感染症対策の国際潮流とか大きな議論をしていただくのが国政場ではないか」

加戸はこう述べて、文部省(現文科省)時代の部下であった前川に真正面から反論した。

加戸によると、加計問題をめぐり多くの報道機関が取材に訪れたというが「申し上げたいことを取り上げてくれたメディアは極めて少なかった」という。

そうした加戸の思いは朝日新聞にはまったく伝わらないようだ。朝日は15日朝刊でも「加計問題 張れぬ疑惑」との見出しで、1ページを使ってこれまでの獣医学部新設を巡る経緯や問題点を並べた。安倍や加計孝太郎の顔写真入り

のチャート図を作成するなど読者にわかりやすい紙面づくりを心掛けていた。そのなかでは10日の閉会中審査での前川発言は何度も紹介したものの、同じ場で愛媛県での獣医学部新設の必要性を訴えた加戸の発言には触れなかった。

産経新聞政治部編集委員の阿比留留比は「自分たちの安倍晋三政権批判の筋書きに合致しない加戸発言は、存在しないかのような扱い」だと批判している。そのなかでは10日の閉会中審査での前川発言は何度も紹介したものの、同じ場で愛媛県での獣医学部新設の必要性を訴えた加戸の発言には触れなかった。

産経が「加戸発言 報じぬ朝毎」との見出しで、両紙が加戸発言を報じなかったことを報じると、ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)でたちまち拡散された。多くの人が加計問題における各紙の報道姿勢に疑問を持っていることへの裏付ける形となった。

新聞だけでなく、NHKをはじめテレビ各局でも加戸発言を詳しく紹介した番組は少なかった。テレビ局には抗議の電話が相次いだという。こうした「民意」を意識して、日ごろは安倍批判オンパレードともいっていい日曜日のTBS番組「サンデーモーニング」で、評論家の大宅映子は「加戸発言をメディアはあまり取り上げない。私は真実を知りたい。好き嫌いじゃなく」と発言。司会の関口宏も思わず「そうですね」と応じた。

## 印象操作でファクトは出ない ようやく実現した獣医学部

加戸も訴えたように、愛媛県での公務員の獣医師は定員割れが相次いでおり、深刻な問題となっている。ブランド牛「愛媛あかね和牛」の品種改良や繁殖に向けた研究開発などを行う県畜産研究センターでは、10年前は10人いた獣医師が、昨年から4人となるなどぎりぎりの状況となっている。

加戸は6月15日の産経新聞のインタビューで、愛媛県知事任中に宮崎県で発生した口蹄疫対策として、港で検疫態勢を取り、獣医師らが消毒に当たったことに触れながらこう語った。

「全員が不眠不休でやった(中略)あのときほど獣医師がほしかったことはなかった。もう一回、口蹄疫が来たらみんなぶっ倒れますね」

こうした実態は伝えずに、「疑わしい」「信用できない」などの印象操作を繰り返している。それでは核心に迫るファクト(事実)は出てこない。

「自分自身も(記事を)書かれる立場として、(加計問題が)いかにフェイクかとよくわかる。フェイクニュースは蔓延している」と語るのは衆院議員、小泉進次郎である。

そもそも加計学園問題を報じたのは朝日新聞で、文科省が「内閣府から」官邸の



愛媛県今治市に獣医学部を新設する加計学園・岡山理科大学。加戸守行愛媛県知事は国会で、獣医学部が認められたことで、「10年間我慢させられてきた岩盤規制にドリルで穴を開け、『歪められた行政が正された』と証言したが、朝日、毎日などから完全無視された。

最高レベルが言っている』『総理のご意向だと聞いている』などと言われたとする記録を文書にしていたことがわかった」という「スクープ」だった。だが、元経産官僚で国家戦略特区プロジェクトに関与した政策コンサルタントの原英史はジャーナリスト・櫻井よしの「言論テレビ」で次のように証言した。

原「(国家戦略特区は)安倍内閣になってから急にスピードアップしたとか言われているが、私から言わせればなんでこんなに時間がかかったかというぐらい遅くもなかった。最初今治市は全然前提にせず、むしろ新潟市から国家戦略特区で獣医師学部をつくりたいとの提案

の言い訳のために文書を作成し、それをリークしたのだろう」と解説する。

こうした内情を無視して、朝日新聞などは加計学園の理事長の加計孝太郎が安倍の長年の親友であることから、「忖度」が働いたとして、内閣府に敗北したと恨みに思っていた文科省の意図返しシナリオに乗ったとみるべきであろう。

朝日新聞はトランプ政権誕生を受けて、フェイクニュースに「対抗」するためとして、政治家の発言やニュース報道の内容について事実関係を検証する「ファクトチェック」を始めた。焦点は加計学園問題でもファクトチェックをして、官房副長官、萩生田光一の答弁は説明不足を批判している。だが、真先にファクトチェックするべきは朝日新聞の報道そのものではないか。

## 毎日と加計の「深い関係」 系列大学へOBが教授に

毎日新聞も同様である。毎日新聞の専門編集委員、与良正男は「安倍政権、物言えぬ暗さ」とのタイトルで、加計問題をめぐり安倍政権の批判を展開している。もっとも、与良はその前に毎日新聞社と加計学園の「深い関係」について説明する必要がある。

毎日新聞社は平成23年の加計学園の50周年の式典開催に際し、大阪からヘリコプターを飛ばし、学校上空から当時の社長、朝比奈豊の祝詞を投下、式典に届けられた。式典には大阪本社副代表も出席し、学校側に花束を贈呈している。与良自身も50周年記念事業の一環として、23年11月に千葉科学大学で「私たちが変われば政治も変わる」との題で講演している。

関係者によると、毎日新聞社と加計学園が親密になったのは、1980年に開催された第52回選抜高校野球に加計学園が経営する岡山理科大学附属高校が初出場したことに加計の経営陣が感激したことも大きいといわれている。もちろん、選抜高校野球を主催しているのは毎日新聞社である。その後、岡山理科大附属は野球の強豪校として全国的にも知られるようになった。

月刊誌「選抜」は、加計学園グループが運営する岡山理科大学や吉備国際大などに毎日新聞記者OBが教授として迎え入れられるとともに、岡山や広島などの支局長らは学校から接待漬けにされていると報じた。

こうしてみると、毎日新聞社は安倍政権よりもはるかに加計学園とは密接な関係であるといえるだろう。そこを蓋して、安倍政権批判をしても何ら説得力はない。毎日新聞社は加計学園との関係について自ら説明責任を果たすことが求められている。そうでなければ、ネットの世界で言われている「マスゴミ」と称されても仕方がないのではないかと。(敬称略)

### 年別 加計学園問題の経過

|    |                                     |
|----|-------------------------------------|
| 41 | 北里大の獣医学部(畜産学部)発足                    |
| 50 | 愛媛県今治市が大学誘致を目指す学業都市構想を表明            |
| 16 | 文部科学省が獣医学部新設を認めないとする告示              |
| 19 | 愛媛県と今治市が構造改革特区を活用した獣医学部新設を政府に提案     |
| 23 | 岡山経産先内閣で提案が「実現に向けて対応を検討」に           |
| 12 | 第2次安倍晋三内閣発足                         |
| 24 | 国家戦略特区法成立                           |
| 27 | 4日、今治市が国家戦略特区を活用した獣医学部新設を提案         |
| 30 | 政府が獣医学部新設の4条件(石破4条件)を定め、日本再興戦略を閣議決定 |
| 28 | 1日、今治市が国家戦略特区に決定                    |
| 9  | 国家戦略特区ワーキンググループで、獣医学部新設方針が事実上決定     |
| 5  | 文科省内で「総理のご意向」[官邸の最高レベル]などを「すまじ」が出る  |
| 11 | 広域に獣医学部がない地域に限り獣医学部新設を認めるとの条件が追加    |
| 12 | 日本獣医師会が1校に限り認めるよう要請                 |
| 20 | 14日、文科省と内閣府が、1校に限り認める告示             |
| 20 | 特区事業者に加計学園を誘致                       |

がでて、新潟市を前提にやっていたんですよ」

櫻井「そうですね」

原「だから加計ありきだと今治ありきだとかいうのは私たちからすれば、『何を言っているんですか?』と。めちゃくちゃな話で、そんな話はない。[首相が]理事長とお友達だと聞いたことがないし、知らないし、全く関係なく普通に議論して進めました」

櫻井「ええ」

原「なかなか文科省が動かないので時間がかかっちゃいましたけど、ようやく実現しました、というだけの話」

## 学部新設を拒み続けた文科省 朝日こそファクトチェックを

文科省は農林水産省による獣医師の需給推計を根拠に「獣医師は足りている」と、学部新設を拒み続けた。これに対し、原ら国家戦略特区のワーキンググループの委員たちは文科省になんども検討状況をたずねた。拒み続けた文科省だが、最後には「わが省だけでは決められない。政府全体で決めてほしい」と内閣府に委ねた。「官邸の最高レベル」の文科省の内部文書が作成されたのはその後のことである。この時点では獣医学部新設の議論は決着しており、安倍の意向が働くことはない。政府関係者は「文科省としては省内向け

**加計学園問題に対する見解の相違**

前川 加戸守行

加計学園理事長

愛媛県獣医師会がいくつ回も出てきた。家畜伝染病、創薬分野が必要

獣医師の需要

既存の大学からすれば獣医学部は丸箱だから新設されたら困る

既得権益、天下りとの関係は

東京の私学はけんもほろろ。愛媛にとっては12年間、加計ありきだ

10年間、我慢させられた。歪められた行政が正された

前川 加戸守行

岡山理科大学学長

農林水産省から不応とするという意見表示はない。厚生労働省も加わった協議が必要

既存の大学の定員を増やす方がコストが低い(大学への)不利は無関係

条件が付けられる中で、加計だけが残った。不公平だ

結果として加計だけが認められたプロセスが不明確だ

県前知事、加戸守行の発言が朝日新聞などで「完全無視」されたことだった。

加戸の証言は7月10日に行われた参院の閉会中審査で出た。この日の審査では、加計問題をめぐり「行政が歪められた」と官邸批判を展開している前文部科学省事務次官の前川喜平も出席。テレビ各局や翌日の新聞各紙などは前川発言のほうを大きく報じた。

例えば、朝日新聞は11日付1面トップで「加計ありき 疑惑消えず」との見出しで、前川発言を多く伝えた。その横には「『首相信用できない』61%」とする同社の世論調査結果も添えた。2面には「丁寧な説明」なき審議」との見出しで、安倍らが外国訪問中で不在だったことを指摘し、政府側の説明不足と批判した。ところが、記事のどこをみても、加戸の発言はなかった。質疑詳報をみても、加戸答弁を引き出した自民党参院議員青山繁晴の質問すら掲載していなかった。

毎日新聞も詳報以外では加戸の発言を伝えていない。東京新聞では社会面で加戸の発言を取り上げたものの、なぜか肝心の「歪められた行政が正された」との部分では抜けていた。対照的に読売新聞や産経新聞は加戸発言を伝えた。

## 愛媛県、12年間の加計ありき 獣医学部の必要性を訴える

では、加戸発言とはどのようなものだったか振り返ろう。

「東京の有力な私学に声をかけたが、けんもほろろだった。愛媛県にとっては12